

実施日：1月20日～1月25日	
教科等：英語科	
取組名：SDGsの目標6「安全な水とトイレを世界中に」を考えよう	
対 象：第1学年生徒	実施場所：英語教室
<p>ア ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書の題材や中村哲さんの生き方を通して、安全な水と人権尊重がどのように関連するかを考える。 安全な水の問題から、人権尊重やSDGsの考え方について理解を深める。 	
<p>イ 指導内容（指導略案）や取組の概要</p> <p>第1次 Unit 9 (Think Globally, Act Locally) の内容を読み取る</p> <ul style="list-style-type: none"> 今回の題材がケニアを舞台にしたものであり、ケニアの医療事情等について教科書で確認する。 <p>第2次 世界の国で、行ってみたい国について対話しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> 世界を意識する意味で、タブレット端末でいろいろな国について調べ、行ってみたい国について情報交換をする。 <p>第3次 ケニアの水事情を教科書から読み取り、きれいな水について考える</p> <ul style="list-style-type: none"> なぜ井戸からきれいな水が出ることで子どもたちは笑顔になるのか。なぜ子どもたちや女性が毎日長距離を歩いて水をくみに川へ行かなければならないのか。日本で生活を送る上で、水の不便さを感じる機会は非常に少ない。しかし、日本とは異なる生活環境にある人たちがまだ世界にはたくさんいて、そうした人々や国々への支援が必要であることを、動画や「きらめき」等の資料を通して考えさせる。 <p>【活用資料】中学生人権教育資料「きらめき」(SDGsについて考える)</p>	
ウ 連携先：家庭	
<p>エ 連携にむけての取組</p> <p>タブレット端末を家庭に持ち帰らせ、可能であれば保護者と共に家庭でできるSDGsの取組を考えてもらった。冷蔵庫の整理や水の無駄遣いを減らす、家庭ごみの減量方法など、保護者の考えも生徒のプレゼンテーションに取り入れるようにした。</p>	
<p>オ 組織的な取組とその点検・評価を行ううえでの工夫点</p> <ul style="list-style-type: none"> 本校では、「地域の防災拠点としての学校」として、毎年地域住民とともに防災学習を行っている。災害が発生時に問題になるのが、ライフラインとしての水の確保と、清潔なトイレの設置である。防災学習で学んだ安全な水とトイレの問題を、教科書の題材と関連付けて考えさせることで、世界にはまだ不衛生な水やトイレの使用を余儀なくされ、健康や尊厳が失われている人々が多くいることを知ることに繋がる。 「きらめき」に紹介されているSDGsの一覧表を活用することで、自分の興味がある目標について考えを深めていく活動とする。 	
<p>カ 評価の方法</p> <p>話し合い活動の様子</p>	
<p>キ 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> 今回のゴールをグループ内発表にしたため、グループ内で教え合ったり助け合ったりする姿が見られた。発表後は拍手が起こるなど、温かい雰囲気の中で学習を進めることができた。SDGsについては小学校でも学習をしてきているが、生徒たちの感想から、自分たちにできることは何なのかをより深く考えることができた生徒が多かった。 英語によるプレゼンテーションも条件のひとつとして加えたことで、タブレットを使ってより深く学べた。 	
<p>ク 課題</p> <p>「自分たちにできること」を述べるときに、安易に「ボランティア」や「寄付」といったところへ思考が偏りがちである。日常生活の中でできることは何か、この学習を機会に、折に触れ子どもたちと確認をしていきたい。</p>	